

# 大動脈瘤破裂防止へ補強

## 病院の実力

～岩手編 154

塞栓術の治療の項目には、カテーテル治療とバイパス手術の合計件数を示した。

的な治療が必要とされる。

脚の付け根から血管内にカ

テーテル（細い管）を通し、カ

この部分にステントグラフ

トという、筒状の器具を置い

て補強する「ステントグラフ

ト内挿術」が、近年増えてい

る。こぶのできた部分を切り取

つて、化学繊維でできた人工

血管に置き換える手術「人工

血管置換術」も行われる。

「閉塞性動脈硬化症」は、

脚の動脈が狭くなったり詰ま

ったりして、血流が悪化し、

歩くと脚にしびれ、痛みなど

が出る病気。糖尿病など、生

活習慣病の患者がなりやす

い。薬物療法や運動療法を行

つても改善しない場合は、血

管の狭くなった部分をカテーテ

ルを用いて広げる治療や、

迂回路を作るバイパス手術が

選択肢になる。一覧表の「閉

う」ともある。血流を改善す

るためにバイパス手術や、カ

テーテル治療が行われるケ

スもある。

## 糖尿病や喫煙 原因に



岩手医大 内科学講座循環器  
内科分野の安孫子明彦准教授  
(53) [写真]に、血管の病気の特徴や治療法について聞いた。

△

血管の病気は大きく分けると、大血管疾患と末梢血管疾患がある。大血管疾患の大動脈瘤は、横隔膜から下にでると「腹部大動脈瘤」、上にでると「胸部大動脈瘤」に分けられるが、腹部の発症割合が高い。

腹部大動脈瘤は、男性の場合は「5・5%、女性は1%で、偶然みつかる場合が多い。

末梢血管疾患の「閉塞性動

脈硬化症」は、加齢のほか、

糖尿病や喫煙などが原因で、主に下肢動脈に発症する。一般人では1~3%の人が発症するのにに対し、65歳以上の高齢者では3~6%、糖尿病患者では5~10%、透析患者や脳・心疾患のある人では10~

病院の実力「血管の病気」  
医療機関別2019年治療実績  
(読売新聞調べ)

医療機関名	重症下肢虚血治療の実施の有無		
	腹部大動脈瘤	閉塞性動脈硬化症の治療	人工血管置換術
岩手医大	27	60	132 ○
青森			
八戸市立市民	44	11	33 ○
弘前大	25	10	8 ×
宮城			
東北大	67	29	90 ○
仙台厚生	40	22	404 ○
石巻赤十字	14	22	55 ○
仙台オーパン	14	3	28 ○

初期症状では、しびれのほ

か、歩くと痛みが生じ、休む

と和らぐ「間歇性跛行」が挙

げられる。だが、安静時でも

痛みが生じたり、指先が壊死、または変色したりする場合は

「重症下肢虚血」とされ、早急な治療が必要となる。

当院では、内科・外科・放

射線科のチーム医療で治療方針を議論するほか、県内の県立病院ともネットワークを構築。県立病院の担当医と患者の電子カルテを共有し、テレビ電話で相互に相談や助言を行っている。患者が転院してくる場合は、診療情報を正確に引き継げるメリットもある。

△

閉塞性動脈硬化症の患者は、脳や心臓に向かう動脈も狭くなっている場合があり、脳梗塞や狭心症など、他の病気の併発にも注意が必要だ。病気の発見につながる「足首と上腕の血圧比数(ABI)」は、多くのかかりつけ医でも測定できる。値が0~9以下の場合は、閉塞性動脈硬化症を疑い、かかりつけ医で精密検査を受けてほしい。

全国の調査結果は17日の「安心の設計面」に掲載しました。